

東北教区報 2023年4月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>

キリスト教における「復活」とは、もちろん主イエス・キリストの十字架の死と葬り、そして復活と昇天によって完成された、人間の「罪の死」からの解放を指す言葉であり、私たちを罪から救い出し、永遠の命へと導いてくれる神様の恵みです。そしてそれは、女性たちが「恐れながらも大いに喜び、弟子たちに知らせるために走って行った」(マタイ28:8)とあるように、人間を絶望から希望へと「復活」させてくださる恵みでもあります。

そんな大いなる恵みである主の復活ですが、すでに3年を過ぎた新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態、あるいは1年前から起きているウクライナへのロシアによる軍事侵攻を目の当たりにして生きている私には、これらの恵みに加えて「全ての分断を結び直す」という復活の恵みも神様に与えられていると感じ

イースターメッセージ

「主の復活は全てを結び直す」

司祭 パウロ 渡部 拓

てならないのです。世界は今現在様々な「分断」に溢れています。ウイルスは人々の顔に「マスク」という分断をもたらし、人の笑顔を見えにくくしてしまいました。またこの事態は、以前から進んでいた人々の「電脳空間」への依存を加速させ、

「人と神様」の繋がりは、確かなものとして存在していたからです。

これらのともすれば当たり前前にも思えることが、今の世界で「復活」させなければならぬ「分断を超えて結び直すべきもの」であるのだと思います。そしてその中心にはやはりイエス様がおられるの



「人々」の繋がりは、確かなものとして存在していたからです。

これらのともすれば当たり前前にも思えることが、今の世界で「復活」させなければならぬ「分断を超えて結び直すべきもの」であるのだと思います。そしてその中心にはやはりイエス様がおられるの

だと、私は確信しているので

す。

そしてこの事実は私たちに、今のこのような世界にあって、私たちは決して絶望すること、その必要も無いことを教えてくれます。何故ならこの未曾有の事態が広がる世界にあって、主の復活の恵みは確かに働いているからです。確かに目に見える部分では、以前よりも後退してしまったりと感じられる部分もあるかもしれませんが、しかし逆に言えば、私たちはイエス様が教えるように「最後まで耐え忍ぶ者」(マタイ24:13)として、今この時立ててもいるのだと思います。

だからこそ私たちはこの主の復活を祝うこの時に、ますます力づけられて、「今の世界に不必要な分断を無くして全てを結ぶ、神様の復活の奇跡が、確かに教会にある」ということを、少しずつでも広げていくことはありませんか。またこの4月には、新主教の按手・就任という、教区としてのまさに「新しい命」の歩みが始まろうとしているのですから

(福島聖ステパノ教会 牧師)

日本聖公会東北教区主教退任に寄せて

「退任の辞」

— 支えられ、助けられて —

第8代東北教区主教 主教 ヨハネ 吉田 雅人

2017年11月30日(使徒聖アンデレ日)に公会の主教職に聖別され、東北教区主教に就任してから、5年と4ヵ月がたちました。私は満70歳となり、3月31日付けで定年退職いたします。これまで主教職としての働きを、祈りをもってお支えくださった教区の皆さま方、本当にありがとうございました。

◆支えられ、助けられて◆

思い起こしてみますと、1979年に神学校を卒業した時、これから43年間、本当にやっていけるのかと不安で一杯だったように思います。そして一番の不安は、「同じ聖書の箇所から43回も説教できるのだろうか」ということでした(当時は文語の祈禱書でしたから聖餐式聖書日課も毎年同じ箇所でした)。

事実、初めて牧師に任命さ

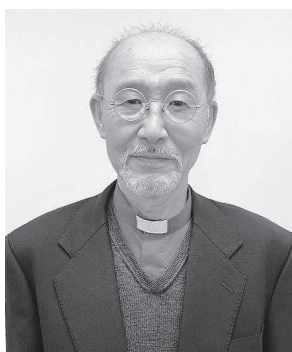
れて赴任した2番目の教会では、徹夜しても説教ができず、当番の信徒の方が来られているのにまだ机に向かっていて、ということが何度かありました。しかしそんな時に限って、礼拝後の信徒の皆さんからの応答が具体的だったことを思い起こします。未完成なままでしたから、必死で語りかけていたのでしょうか。

また最初の任地の教会では、中学校の国語の先生をしてもらった信徒の方が、いつも鋭い目で私を見つめ、説教を聞いてくださいました。普段は特に反応がなかったのですが、5年目に1度だけ「おっ！今日のはよかったよ」と言ってくださり、涙が出るほど嬉しかったことを思い出します。このような私の未熟な部分、至らない部分を暖かく支え、成長させてくださったのは、信徒の皆さんお一人おひとり

でした。感謝です。それからいくつもの教会で働かせていただきましたが、信徒の方々と協働することができた時には、教会にやさしさと活気が満ちていたと思います。

◆本当に大丈夫か？◆

その後、ウイリアムス神学館で教えていました時に、東日本大震災が起こりました。7月に神学生を連れてボラン



ティアに参加させていただき、加藤主教や長谷川司祭のお世話になりました。南三陸町や磯山聖ヨハネ教会を訪れる機会もいただき、津波の恐ろしさを少しでも体感することができました。

それから6年後、東北教区主教に選ばれたというお知らせをいただくことになりました。主教職など、とても私の任ではないと思いましたが、定年までの5年間は、一牧師

として牧会に専念したいと心密かに願っておりました。

ですから、できればお断りしたいと思っていました。が、もう一方で神学生に「仕えられるためではなく仕えるため」と教えてきたこともあり、言行不一致というわけにもいかなないと悩みました。

そのような迷い道の中で思いついた御言葉がありました。それは神学生時代に聖職を目指してよかったのか迷っていた時に出会った御言葉、「……主はわたしに言われた。『若者にすぎないと言ってはならない。……恐れるな。わたしがあなたと共にいて……』(エレミヤ1章5-8)」でした。

この度も「〇〇にすぎないと言ってはならない」という御言葉に背中を押されて、やってまいりました。その任ではないと感じつつ、また教役者の方々はともかく、どのような信徒の方がおられるのか全く知らない中、それで任務を果たせるのだろうかというところに畏れを感じつつ……。

◆支えられ、助けられ◆

教区主教に就任して1ヵ月も経たない内に、鶴岡の斎藤

雄一司祭が召され、赤坂常置委員長の運転する車で、ホワイトアウトの中を走る体験をさせていただきました。同時に雪道を運転するコツも教えていただきました。そして5年の間に雄一司祭をはじめ、秋山久之司祭、笹森伸児司祭、影山博美司祭、佐々木康一郎執事、戸枝正樹聖職候補生と6人の先輩・同労者をお見送りすることになりました。また白河、新庄、鶴岡の礼拝堂聖別解除式を行うことになりました。新型コロナウイルス感染症の流行もあり、信徒の交わりが大きく阻害されました。

しかしそのような状況の中にあっても、心が折れないように支えてくださったのは、信徒の皆さんの笑顔と優しい言葉かけだったと思います。

結局、私は43年間、多くの皆さんの笑顔と優しい言葉かけに支えられ、助けられて職務を終えることができたのでしよう。本当に感謝です。

最後に東北教区の諸教会がこれからも神様の愛の宣教の器として、笑顔と優しさをもって、神と人にとに仕えていかれますようお願いいたします。

ヨハネ 吉田雅人主教へ 感謝のメッセージ

「仕える者として」

司祭ステパノ 越山 哲也

「誠実な司祭になってください。」と吉田雅人司祭(当時)から、私の司祭按手式にウイ

リアムス神学館の館長としてご参列くださった際にご祝辞を頂きました。2005年7

月18日のことです。とても嬉しいお言葉でした。誠実に生

きるとは、相手との関係性や立場などにかかわらず、誰に

対しても平等に接するという

ことと私は思っています。なかなか難しいことですが、こ

れからも吉田主教より頂いた言葉を大事にしていきたいと思

います。

私が吉田主教と初めてお会いしたのはウイリアムス神学館に入学した1999年の春でした。今から24年前になります。神学館の授業で「礼拝学」を教えてくださいました。綿密に準備された講義レジュメを元に吉田主教の礼拝学を3

年間教えて頂き、とても勉強になりました。真面目で優しくて、気さくに話すことが出来る雰囲気を持っておられていたので、私は折々に相談させて頂きました。

5年前の主教選挙の時には東北教区の主教候補として推薦させて頂きました。教区主教に選出され、主教按手式の

教区主教就任ご挨拶の中で吉田主教は、マルコによる福音書10章43、44節「あなたがた

の中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん

上になりたい者は、すべての人の僕になささい」を引用

され、このみ言葉はウイリアムス神学館の館長としていつ

も卒業式の時に神学館を巣立つ卒業生に向けて語ってきた

が、これからは自分自身もこのみ言葉のように「仕える者」として主教職を担っていき

たいと述べられました。

吉田主教のこの5年間は、まさに神様と人々に謙虚に

「仕える者」として歩まれたと思います。決して威張らず、温和で誠実に歩まれ、そして何よりも「祈り」「礼拝」を大事にされました。私が盛岡聖公会の牧師就任式の際に頂いた祈禱書にも「人びとの中で祈りの人となりなさい」と書いてくださいました。聖職としてどんなに日々せわしい時でも「祈り」を忘れてはいけないと心に刻んで歩んできます。心からの感謝を込めて。

「吉田主教さま

ありがとうございます」

盛岡聖公会

アイリーン 坂水 かよ

この3月末をもって東北教区主教としてのお働きを終えられる吉田雅人主教、5年4カ月の間、私たちを導き共に歩んでくださったことに心から感謝いたします。

吉田主教は教区が「主教選挙を考える会」を開催し、教区内の聖職と信徒皆で祈り、考え、学び、そして与えられた、私たちの第8代東北教区

主教でした。

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」(マタイ18:20)この聖句は、2019年2月に盛岡の婦人会が東北教区婦人会役員会のお役を前任の仙台から引き継いだ時に、吉田主教が指導聖句として示してくださったみ言葉です。

教区婦人会は会員が減少傾向にあり、会の在り方にも再考が必要な時期の引継ぎでした

が、吉田主教の「人が集まるところにはイエス様が共にいてくださる。そのことを信じて人数ではなく、共にある

ことに喜びをもって進んでいきましよう」との言葉に励ま

され、以来私の中では「集まる」と「共に」という言葉が、大事なキーワードにな

りました。

この5年で東北教区は、教区展望会議を経て教区の「宣教方針(ミッション・ステートメント)」が掲げられ、実行に向けて知恵を出し合い、動き出しています。教区の組織も、決議機関、執行機関と

それ以外の組織がわかりやすく整理され、新しい「東北教区組織図」が示されました。加えて今教区会期には、北海道教区との宣教協働に向けて、「チーム北国」が誕生し、これからの活動が楽しみです。一つの宣教共同体となっていくために、小さな一つづつが寄り合い集まって「協働すること」に心を砕き、吉田主教と共に歩みを進めた5年4カ月であったと思います。

また最後の3年間は、終息の见えないコロナ禍の中で、公開での礼拝が中止になるなど困難なことも多々ありましたが、吉田主教が司令塔として「教区宣教活動のための指針」を発信してくださり、各教会が迷うことなく教会活動を続けることができたことも感謝いたします。

吉田主教、本当にお疲れ様でした。どうぞお元気で過ごしてくださいように。東北の地で、また吉田主教と「集う」ことができますようにと祈りつつ感謝をもってお送りいたします。ありがとうございました。

東北教区でのお働き、ありがとうございます 「教会暦の恵み」

司祭 パウロ 松本 正俊



あんなに「早く定年退職が来ないかなあ」と思っていた私が、現職を終え、教会を離れて自宅で過ごしていた折に、無性に教会が恋しくなりまして、教会生活に戻りたくなくなりました。

東北教区に受け入れて頂き、小名浜聖テモテ教会に赴任。その時、私は詩篇の「『神の家に行こう』と言われて、わたしの心は喜びにはずんだ」(詩122編)という心境でした。

小名浜聖テモテ教会では、主日礼拝の週報に、毎回「教会が地域社会に対して目に見える形で神様の栄光を現す器になることが出来ますように」と記して祈ってまいりま

した。

そしてその祈りの実践として、主日聖餐式をはじめ「朝の礼拝」「昼の祈り」「夕の礼拝」を毎日献げる時に、電気をつけ、一部の窓と玄関を開けて「昼の祈り」の折には、正午ぴったり鐘を鳴らして：という風に、また出来るだけ「固定祝日・小祝日」も礼拝を献げて、目に見える形で教会の存在をアピールしていました。

当初は、このような礼拝は、教会で「するもの」として神学校時代から教わってきたことだし、私の現職時代は、赴任地によって様々な理由や状況があつて出来たり出来なかつたりでしたので、ここ小名浜の教会では「教会暦」通りきちんとすることを心に決めて礼拝を献げてまいりました。そのうちに驚くべき重大な心の変化が私のうちに起こりました。礼拝を献げている時に、神様の息を感じるの

です。聖霊の息吹を感じます。イエス様が共に傍にいらして一緒に祈ってくださいのを感じるのです。たとえ会衆が一人もいらっしやなくても教会のメンバーと共に祈っているのを感じます。また、神様の身許に召された教会関係逝去者の方々と共に「聖徒の交わり」を通して同じご復活された主イエス様の「み名」を崇めて賛美することを感じたのです。さらに初代教会からの営みである礼拝を、私たちがこの営みに加わる「朝夕の礼拝」「ルブリック」という歴史的に素晴らしい恵みにあずかっている幸いを感じたのです。

祈禱書の「教会問答」の1.で「教会とは何ですか」という問いがあり、「主イエス・キリストにあつて神に生きるすべての人の集まりで、神の家族、キリストの体、聖霊の宮と言われています」とあります。この解説は、理性的・知的にはわかるのですが、そして人にはそのように口に出して言っていたのですが、感性の部分ではピンとこない時があつた、というのが正直な感

想でした。

それが「教会暦」に従って礼拝を献げるうちに、より繊細により深くキリストの現臨、聖霊の息吹、聖徒の交わり等について信じていることが出来るようになったと思ひ感謝しています。

教会は、真に礼拝を献げ続けることによって神様に栄光を帰することになるし、人々に、目に見える形で教会の存

在をアピールすることが出来るのだと、あらためて主なる神に教えられて感謝していたところでした。

お約束の2年の任期を終えて、東北教区主教、聖職・信徒の皆様、殊に小名浜聖テモテ教会・幼稚園の皆様には、「神の民」「神の家族」としての親しいお交わりを頂き、お世話になりました。感謝申し上げます。主の平和

主教按手式・教区主教就任式のお知らせ

主教被選者 フランシス 長谷川清純司祭の主教按手式・第9代東北教区主教就任式が、下記の通り執り行われます。皆様のご加禱をお願いいたします。

なお、式は新型コロナウイルス感染防止を考慮し、参列者を限定して行われます。どうぞ皆様それぞれの地において、覚えてお祈りくださいますようお願いいたします。

司式者 日本聖公会首座主教

主教 ルカ 武藤 謙一 師

説教者 主教 マリア・グレイス 笹森 田鶴 師
(北海道教区主教)

日時 2023年4月22日(土) 午前10:00~

場所 日本聖公会東北教区主教座聖堂 仙台基督教会

※祭色は白を用います。

※礼拝は東北教区YouTube
チャンネルにて配信いたします。



東北教区婦人会総会開催

2023年2月23日・仙台基督教会

新役員会にバトンタッチ

第48回東北教区婦人会総会を終えて

東北教区婦人会会長 仙台基督教会

マーガレット 梅津 庸子

役員の意向も引き継いで企画し、日本聖公会婦人会の被献日献金の支援を受けて実現しました。

はじめ5名の司祭方がご出席くださり、婦人会関係者を含めて35名の参加者がありました。現在教区内

教区婦人会総会は2年に一度開催されますが、前回岩手県（盛岡聖公会）が役員を担当した時はコロナのため書面決議となりました。2月23日、4年ぶりの対面での総会を主教座聖堂仙台基督教会で開催しました。まだ収束しないコロナ渦の中にあり開催も危ぶまれる中、また雪の交通障害も考えられる時期ですので、無事に終わることができて安堵しました。関係者の皆様には厳しい寒さの中、早朝からご参加頂きましてありがとうございます。

午前中は開会聖餐式の後に総会をし、午後はスコット・ショウ先生（立教学院教会音楽ディレクター）をお招きして集まりの時を持ちました。総会では吉田主教のご臨席を頂き、チャプレンの八木司祭は

スコット先生の奏でるオルガンの柔らかな優しい音色が聖堂を包みました。イギリスとアメリカから伝わった聖歌の違いや、グレゴリオ聖歌からフォークソングまで網羅している「聖歌集」の1冊には、ぎっしりとキリスト教の歴史と内容が含まれていることを教えられました。短い時間でしたが聖歌への理解が少しばかり深まったように思います。もうすぐ礼拝で聖歌を全曲歌えるようになった時に、より豊かな賛美がさげられるかもしれません。集まることでまだ制限下にあるので多くの方々を誘えなかったことは残念でしたが、よい時間を持たせていただきました。

あつたことを私たちは現実のこととして体験し、それは今も続いています。このような時代の中でも「小さな群れよ恐れることはない」と招いて下さるイエス様に、どんなに小さなことでもいいから応じていければと思います。「感謝箱献金」を通してイエス様の宣教の業に参画していく婦人会の働きの多様性を求めながら、発想の転換もふまえて具体化していくことが必要な時期であることを思わされた2年間でした。

新会長挨拶
婦人会のこれから

盛岡聖公会

ソフィア 赤坂 康子

第48回東北教区婦人会総会が4年ぶりに仙台で開催されました。2011年以前は各教会婦人会からの代議員は17名程、今回は4分の1に減少です。全体の参加者は35名程、聖職者をはじめ後押しをしてくださる方々に支えられています。昨年大阪での日本聖公会婦人会総会で、顔を合わせることが出来た同じ悩みを抱える北海道教区婦人会と今年度は情報交換をし、これからの婦人会のあり方を模索していきます。また人数の少ない教会の方々、個人会員との繋がりを大事にしたいです。教会での奉仕の形もいろいろあると思いますが、婦人会に入りグループの一員として教会の奉仕に関わっていきたいと思われる方もあります。新しい方向へステップアップ！若い方々の力、御意見が必要です。よろしく願いいたします。

公 示

救主降生2023年1月18日
日本聖公会東北教区主教
主教 ヨハネ 吉田 雅人 ㊤

下記の人事異動を発令します。

主教 ヨハネ 吉田 雅人
2023年3月31日付若松諸聖徒教会管理牧師および山形聖ペテロ教会礼拝協力の任を解く。定年により退職とする。

司祭 フランシス 長谷川 清純
2023年3月31日付 青森聖アンデレ教会牧師および弘前昇天教会管理牧師の任を解く。
2023年4月1日付 青森聖アンデレ教会管理牧師に任命する。

司祭 ステパノ 涌井 康福
2023年3月31日付 秋田聖救主教会牧師および能代キリスト教会管理牧師ならびに山形聖ペテロ教会礼拝協力の任を解く。
2023年4月1日付 福島聖ステパノ教会牧師および磯山聖ヨハネ教会管理牧師に任命する。郡山聖ペテロ聖パウロ教会および小名浜聖テモテ教会ならびに若松諸聖徒教会協働を命ずる。

司祭 テモテ 遠藤 洋介
2023年3月31日付 八戸聖ルカ教会副牧師および大館聖パウロ教会ならびに盛岡聖公会協働の任を解く。
2023年4月1日付 山形聖ペテロ教会牧師および米沢聖ヨハネ教会管理牧師に任命する。仙台基督教会西の平聖パウロミッションおよび聖ペテロ伝道所協働を命ずる。

司祭 ステパノ 越山 哲也
2023年3月31日付 大館聖パウロ教会管理牧師の任を解く。

司祭 ドミニコ 李 賛熙
2023年3月31日付 仙台聖フランシス教会牧師および山形聖ペテロ教会管理牧師ならびに仙台基督教会・2伝道所礼拝協力の任を解く。
2023年4月1日付 弘前昇天教会牧師に任命する。青森聖アンデレ教会および八戸聖ルカ教会ならびに大館聖パウロ教会協働を命ずる。

司祭 ヨハネ 八木 正言
2023年3月31日付 磯山聖ヨハネ教会管理牧師の任を解く。
2023年4月1日付 仙台聖フランシス教会管理牧師に任命する。

司祭 パウロ 渡部 拓
2023年3月31日付 福島聖ステパノ教会牧師および米沢聖ヨハネ教会管理牧師ならびに山形聖ペテロ教会協働の任を解く。
2023年4月1日付 秋田聖救主教会牧師および能代キリスト教会管理牧師ならびに大館聖パウロ教会管理牧師に任命する。

司祭 ヤコブ 林 国秀
2023年3月31日付 若松諸聖徒教会協働の任を解く。
2023年4月1日付 若松諸聖徒教会管理牧師に任命する。福島聖ステパノ教会および磯山聖ヨハネ教会協働を命ずる。

主教 ヨハネ 佐藤 忠男
2023年4月1日付 司祭 フランシス 長谷川清純のもとで、青森聖アンデレ教会において礼拝協力を委嘱する。また司祭ドミニコ李 賛熙のもとで弘前昇天教会において礼拝協力を委嘱する。ただし、法規第53条第2項を準用し、任期をいずれも1年間とする。

主教 ヨハネ 加藤 博道
2023年4月1日付 司祭 ヨハネ 八木正言のもとで、仙台基督教会と2伝道所および仙台聖フランシス教会において礼拝協力を委嘱する。ただし、法規第53条第2項を準用し、任期をいずれも1年間とする。 以 上

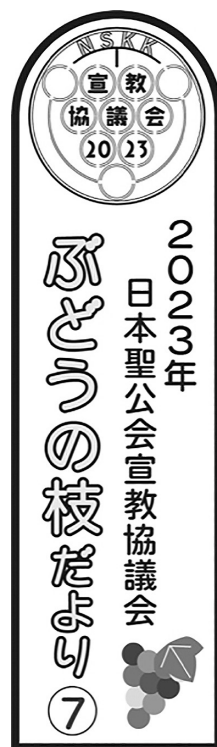
東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

◆「水曜喫茶」(福島県新地町)は2月8日に開催、参加者は8名(内スタッフ3名)でした。参加者たちの近況報告と情報交換で、楽しい場となりました。今回も名古屋の柳城女子大学、東京田園調布カトリック教会、日本聖公会中部教区、前プロジェクト委員個人1名からお菓子が贈られてきました。柳城とカトリック教会からは手書きのメッセージ(添付写真)が添えられた手作りケーキです。差し入れてくださった方々へは、毎回スタッフから礼状を送っています。◆「お買い物支援バス」(名取市閑上)は、9日の1回のみ運行で2名が利用しました。他の回は大雪や祝日のため中止になりました。(司祭 長谷川清純)



常置委員会報告 (第5回・2月16日)

- ◇主教報告
4月1日から次期教区主教就任まで、笹森田鶴主教に東北教区管理主教を委嘱する公示が、2月14日付で出された旨報告。
- ◇常置委員会報告
北海道教区・東北教区宣教協働タスクフォース「チーム北国」第1回会議を3月2日に開催することが決定した。
- ◇協議事項
(1) 盛岡聖公会より信徒奉事者推薦があり、推薦書の一部修正を求めた上で、これを適当と認め、教区主教に推挙した。
- (2) 教区主教より2023年度教区内幼稚園へのチャプレン派遣案が提示され、一部修正を加えたものを教区主教に答申した。
- (3) 大館聖パウロ教会規則の一部変更承認について…大館幼稚園が学校法人園へと移行したことが及び、包括法人である日本聖公会規則が一部改正されたことに伴う規則の改正承認について、これを適当と認め承認した。



宣教協議会

「清里への道」

今年の11月10日(金)・13日(月)に山梨県清里にある清泉寮で開催される「日本聖公会宣教協議会」には各教区から教区主教、宣教担当を含めて8名、そして日本聖公会総会で定められた各委員会などの諸部門の代表、そして実行委員が集まる予定です。

協議会のプログラムの多くはオンライン配信を予定しており、実際に清里に集まるメンバーだけではなく日本聖公会につながる皆さんと一緒に時間を共有し、今後の日本聖公会の歩みについて思いを深め、共に歩み出していききたいと願っています。

各教区からの参加者、各委員会などの諸部門からの参加者が決まりつつありますが、参加者を対象とした「宣教協議会参加者オリエンテーション」

を4月23日(日)と4月27日(木)の2回に分けてオンラインで行う予定です。参加される方の中には、また参加されない方も「宣教協議会って何を協議するのだろうか」という思いを抱かれています。

宣教とは、神様が主体となつてなされる神の国の完成を目指す絶え間ない働きであり、私たちはその働きに招かれています。そして、その招きに応えて神の国を目指す旅をしています。神の国のしるしはこの世界の中にあります。それに気づき、発見することによって私たちの心が開かれ、育てられていくことを願って協議会が行われます。

日本聖公会の今後の歩みを考えるすべてのプロセスは神の国を目指す旅であり、祝福されていることを皆さんと分かち合いたいと思います。協議会が私たちにとって希望と

なり、神様からの祝福を感じられる機会となり、私たち一人一人が元気になると思います。そしてその「元氣」を一人でも多くの方々と分かち合っていきたいと思っています。旅には喜びもたくさんありますが、苦難もたくさんあります。その苦難を乗り越えて旅を続けていくためには希望が必要です。宣教協議会の主題聖句は、「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人にながつていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」(ヨハネ15・5)です。神の国を目指す旅は、イエス様を離れては続けられません。

どうぞ、私たちがイエス様から離れずに旅を続けていくことが出来ますようにお祈りします。「清里への道」が祝福されますように。

(東北教区 司祭 越山 哲也)



↑
宣教協議会スタッフのブログはこちら

礼拝堂探検隊

礼拝堂にあるいろいろなもの、その意味を調べてみました。

(第27回 十字架)

礼拝堂の内外にある様々なものを調べてきた探検隊も、とうとう最終回になりました。

そこで今回は教会がここに在ることを示し、また礼拝堂の正面にある十字架について調べてみました。十字架はキリスト教信仰を表す最も普遍的なシンボルであり、私たちの信仰の根源でもあります。

十字架が公認されたのは、三三三年のミラノ勅令によって行用十字架の使用が許可されたことにあります。六世紀にはシリアで祭壇用十字架が用いられるようになりましたが、西方教会で祭壇上に十字架が置かれるのは十一世紀に入ってからだそうです。

一方、苦難のキリスト像が

ついた十字架が出てくるのはかなり後で、ローマの地下墓地(カタコンブ)はもち



(鶴岡聖公会ベスナリー/十字架)

ろん、五世紀のラヴェンナのモザイクにも見当たらないそうです。と言いますのは、初期のキリスト者は、キリストの十字架刑を苦難としてではなく、ご復活の喜び、死に対する勝利のしるしとして捉えていたため、十字架に架けられた写実的なキリスト像には抵抗があつたそうです。

ですから十字架上のキリスト像もマイターのような冠をかぶり、コロビウム(ローマ時代の下着)にチャズブルを着け、目を開いて、手もまっすぐ横に伸ばしています(鉛山聖救主礼拝堂の十字架)。

写真のような苦難のキリスト像が現れたのは、フランシスコ会の働きにより、受難の信仰が大きく発展した一二世紀から一三世紀にかけてだそうです。

苦難の十字架にせよ、栄光の十字架にせよ、私たちは十字架を仰ぐことで、イエス様の愛をしつかりと感じていきたいと思っています。(教区主教)

